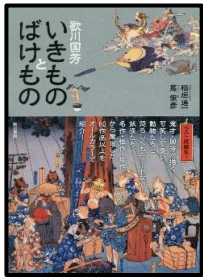




新着図書案内

2018年11月発行



『歌川国芳いきものとばけもの』

鬼才が描く可笑し可愛い動物たちと、恐ろしくもキュートな妖怪たち。浮世絵師・歌川国芳の数多くの作品で描かれた「いきもの」と「ばけもの」から、名作・怪作・珍作を厳選してオールカラーで紹介する。

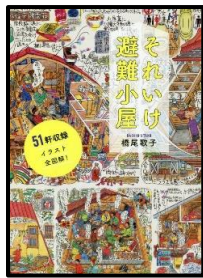
歌川 国芳 // [画] 稲垣 進一ほか // 著 東京書籍



『本の虫の本』

自他ともに認める「本の虫」5人衆が、「つんどく」「作家の不遇時代」「せどり今昔物語」など、本にまつわるキーワードを自由気ままに解説。本の世界を縦横無尽に楽しむための案内書。

林 哲夫ほか // 著 創元社



『それいけ避難小屋』

東北から四国まで、著者が訪ね歩いた51軒の避難小屋(無人小屋)を、間取りや状況、登山道などの様子がわかるイラストで図解する。所在地、収容人数、水場などのデータも掲載。『山と溪谷』連載に描き下ろしを加え単行本化。

橋尾 歌子 // 著 山と溪谷社



『数学パズル大図鑑』

巨匠パズル作家が、数学史・科学史的な視点を導入しながら、古今東西のパズルをビジュアルに紹介。1は、紀元前1650年の「アーメスのパズル」、1858年の「ホルディッチの定理」などを収録する。チェック欄あり。

イワン モスコビッチ // 著 東田 大志 // 監訳 化学同人



『死に山 世界一不気味な遭難事故《ディアトロフ峠事件》の真相』

学生登山家9名が凄惨な死に様で発見された、旧ソ連・ウラル山脈で起きた遭難事件「ディアトロフ峠事件」。原因は雪崩か吹雪か、あるいは衝撃波か? アメリカ人ドキュメンタリー映画作家が、未解決事件の全貌と真相に迫る。

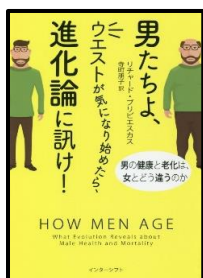
ドニー アイカー // 著 安原 和見 // 訳 河出書房新社



『きらいになれない害虫図鑑』

アース製薬研究所・飼育室に勤務する著者による、笑えて、深くて、真面目な害虫の話。「ゴキブリは人間を襲わない」「カメムシは自分の臭いで死ぬ」など、育ててわかった害虫たちの意外な素顔を紹介する。

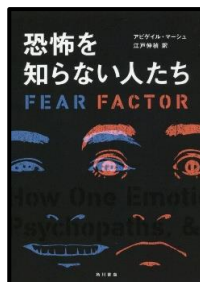
有吉 立 // 著 幻冬舎



『男たちよ、ウエストが気になり始めたら、進化論に訊け!』

男の免疫力はなぜ女より弱いのか? 年とともに男のウエストが太めになる進化的メリットとは? 男と女の健康・老化の違いから、ヒトの進化の核心を解き明かす。男の、そして人類の健康・エイジングに関する新たな洞察が満載。

リチャード ブリビエスカス // 著 寺町 朋子 // 訳 インターシフト



『恐怖を知らない人たち』

善意をもたないサイコパスと、犠牲をいとわない利他主義者。その差は恐怖のとらえ方にあった。最新脳科学でサイコパスの脳を徹底分析。また、哺乳類の利他行動の起源や、いかに獲得したかを検討し、人間の利他的可能性も探る。

アビゲイル マーシュ // 著 江戸 伸禎 // 訳 KADOKAWA

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。



『廃校再生ストーリーズ』

廃校がカフェやオフィス、病院、博物館、老人ホーム、酒蔵、道の駅、図書館、水族館になった! コミュニティデザインの舞台となった、全国の廃校再生のケーススタディを紹介する。廃校活用Q&Aも収録。

美術出版社

『虹の図鑑』

山や海はもちろん、噴水にできる小さなものや雲の上から見える巨大なものまで、世界中の虹22種の美しさを紹介する。ほか、虹色の自然現象、虹の見つけ方・撮り方、虹のしくみや文化などについても写真とイラストで解説する。

武田 康男 // 文 写真 緑書房

『まぼろしの奇想建築 天才が夢みた不可能な挑戦』

2階建てのゾウ建築、球形のニュートン記念堂、高さ1.6キロの高層ビル…。中世から20世紀に至るまで、構想されながらも「幻」と消えた建築を紹介。建築家や芸術家、思想家が夢に描いた、壮大で妄想に満ちた挑戦をたどる。

フリップ ウィルキンソン // 著 日経ナショナルジオグラフィック社

『意識の川をゆく 脳神経科医が探る 「心」の起源』

亡くなる直前、脳神経系や意識の起源につながることで患者の症例、そして自らの病状をも素材にして思索を深め…。科学と創造の巨人たちから受けた影響と自らの好奇心、情熱の源泉を語った、著者最後の医学エッセイ。

オリヴァー サックス // 著 大田 直子 // 訳 早川書房

『女子のための「手に職」図鑑』

結婚、妊娠、出産、子育てと仕事に関する情報を、100種類の職業ごとに分類。出産後も好きな仕事を続けたいからこそ、知っておきたいリアルな現状を解説した、女子のための仕事図鑑。

華井 由利奈 // 著 光文社

『エドガルド・モルターラ誘拐事件 少年の数奇な運命とイタリア統一』

1858年、ポーロニャ。時の教皇ピウス9世は、なぜユダヤ人商人の6歳の息子エドガルド・モルターラを連れ去ったのか? イタリア統一の過程における重要なエピソード「モルターラ事件」の知られざるドラマを描く。

デヴィッド I.カーツァー // 著 漆原 敦子 // 訳 早川書房

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。

『東西ベルリン動物園大戦争』

冷戦時代、分断されたベルリンにあった2つの動物園では、奇妙な代理戦争がくりひろげられていた。2人の園長はゾウや希少動物の数を競い、存在感を誇示して…。知られざる冷戦の歴史に迫る。

ヤン モーンハウプト // 著 黒鳥 英俊 // 監修 CCCメディアハウス

『映像編集者のリアル』

映像作品を支える編集者の“リアル”に着目。編集室を訪ね歩いて拾い集めた彼らの“声”を紹介し、編集とは何かについて考える。監督・大根仁×編集・大関泰幸の対談なども収録。『ビデオSALON』連載を加筆・修正。

玄光社

『悪態の科学 あなたはなぜ口にしてしまうのか』

クソ、ちくしょう、ふざけんな! 科学者たちが注目する驚きの効用から脳の仕組み、罵倒語を話すサルまで、辞書にも載らない汚い言葉(タブー)を、神経科学、言語学、行動心理学の貴重な実験・研究結果から解き明かす。

エマ バーン // 著 黒木 章人 // 訳 原書房

『肉食の社会史』

日本人は、動物を殺して食べることに、いつから「うしろめたさ」を抱いてきたのか。中世日本の肉食文化を探り、獣肉食忌避の基調はいかに形成されたのか、実態との間にどのような葛藤があったのかを論考する。

中澤 克昭 // 著 山川出版社

